

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

求めないで 優しさなんか 臆病者の言い訳だから (P2)

チーフカスタマーディーラー
井口 慶一

今週のドル円予想レンジ **103.80 ~ 106.30**

りそなWEEKLY COLUMN

HFT（高速・高頻度取引に）注意せよ (P3)

埼玉りそな銀行 資金証券部
清水 勇登

- マーケットに存在する高速取引は、ナノ秒の世界。
- イベント直後は、アルゴリズムによる「騙し」に注意！
- 大事なことは「HFT」が活躍しそうな土俵にあがらないこと

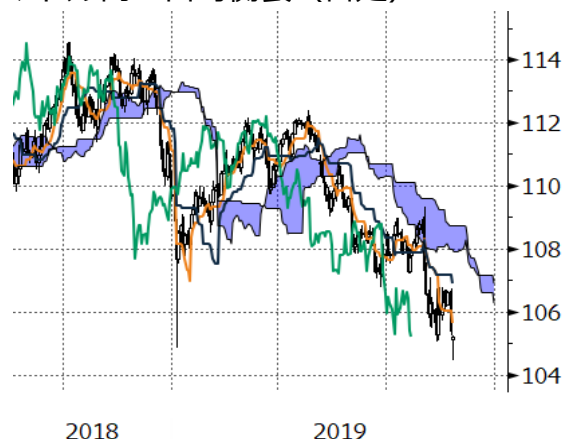
りそな外為レポート

求めないで 優しさなんか 臆病者の言い訳だから

今週のドル円予想レンジ 103.80 ~ 106.30

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表 (日足)



◆為替相場のすすめ

先週は、中国が米国の制裁関税「第4弾」への報復措置として約750億ドル分の米国製品に5~10%の追加関税をかけると発表。トランプ大統領はこれに激怒し、もう「中国は不要」と2500億ドル分の制裁関税を10月より現在の25%から30%に引き上げ、9月から10%を予定していた「第4弾」は15%に引き上げると表明。さらに米国企業に対し中国からの事業撤退も要求するなど、米中の関税合戦は沈静化するどころか一層泥沼化の様相を見せている。

『信じられぬと嘆くよりも人を信じて傷つくほうがいい』という立派な言葉があるが、そんな悟りを開いている場合ではなくなっている。『求めないで優しさなんか臆病者の言い訳だから』のフレーズを胸に厳然とマーケットに対峙すべき状況にある。今週は、米経済指標の発表はFRB高官の講演などが予定されているが、来週9月1日からは米中双方の新たな追加関税がスタートする予定のため、米中貿易摩擦に対する警戒感からリスクオフの地合いは継続する見込み。

(チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

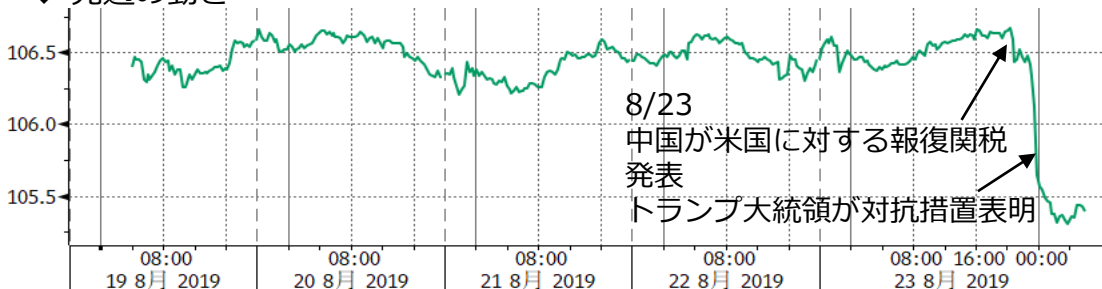
◆今週の日程

26日(月) 独 8月IFO景況感指数	29日(木) 米 19/2Q GDP改定値
26日(月) 米 7月耐久財受注	29日(木) 米 7年国債入札
27日(火) 米 8月消費者信頼感指数	30日(金) 日 7月鉱工業生産
27日(火) 米 2年国債入札	30日(金) 欧 8月CPI
28日(水) 米 5年国債入札	31日(土) 中 8月PMI

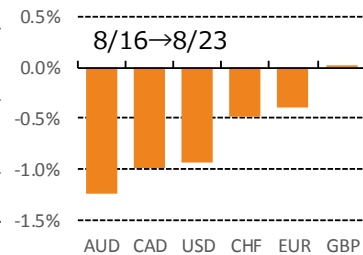
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 23日(金) 105.39円 VS 30日(金)

東京							大阪			埼玉						
尾	中	湊	井	鳥	田	高	関	藏	佐	鈴	武	野	小	津	石	伊
股	根		口	井	中	尾	口	重	藤	木	富	瀬	林	田	井	藤
↓	休	↓	↓	↓	↑	↓	休	休	↓	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↓

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2019/8/26

りそな WEEKLY COLUMN

HFT（高速・高頻度取引）に注意せよ

- マーケットに存在する高速取引は、ナノ秒の世界
- イベント直後は、アルゴリズムによる「騙し」に注意！
- 大事なことは「HFT」が活躍しそうな土俵にあがらないこと

埼玉りそな銀行 資金証券部 市場営業部
清水勇登

10億分の1秒の世界で



「HFT」取引業者とは

今夏の高校野球は、高速投球で活躍するピッチャーが印象に残る一年となりました。約150kmもの速度で放たれる白球が、瞬く間にキャッチャーミットに収まる様子は、見ていて爽快なものでしたが、キャッチャーまでに届く距離を時間に換算すると、わずか0.44秒と一瞬の出来事なのだそうです。

この1秒未満の世界で、バットを振ってボールを捉えるのは至難の業ですが、マーケットの世界では、いとも容易く取引を繰り返す高速取引業者が存在します。彼らは、高速・高頻度の取引を駆使して、ナノ秒（10億分の1秒）の世界で売買を行うことができるため、0.44秒の間になんと約4億4千万回もの取引を実施できるのです。

この高速取引を市場では「HFT（High Frequency Trading）」と呼びます。「HFT」取引業者の多くは、高度な演算能力を持つハードウェアやソフトウェアを駆使し、高速かつ高頻度の取引を重ねて、利益を積み上げていきます。

また「HFT」取引業者は、マーケット・メイカーとして、売買気配の提示による市場流動性を供給し、市場貢献度の高い役割も担います。さらに、高速・高頻度取引を活用し、裁定取引を実施することで、相場の不均衡を是正する存在でもあります。

一方、「HFT」取引業者の高速かつ高頻度のアルゴリズム取引※が相場の方向性を大きく加速させる「フラッシュ・クラッシュ」の一因との報告もあり、市場参加者にとっては「HFT」が市場の歪みを作り出す原因であるとの認識に繋がっているようです。次項では、相場のノイズを生み出す具体的なアルゴリズム取引について、詳しく触れていきます。

※アルゴリズム取引とは…コンピューターがあらかじめ構築されたプログラムや手順に従い、売買注文や取引を自動的に行う仕組みを指します。

リそな WEEKLY COLUMN

「HFT」取引業者の得意なアルゴリズム取引

「HFT」取引業者が得意とするアルゴリズム取引のうち「イベント(ニュース)・ドリブン」というものがあります。「イベント(ニュース)・ドリブン」は、ニュースや経済指標、要人発言等の重要な発表がなされた瞬間、他の市場参加者の行動より早く売買注文を出し、利益を追求するアルゴリズムです。

このアルゴリズムは、ニュース等で配信されるテキストデータを自動的に読み取りにいくこととなりますが、昨今の情報ベンダーやSNS等から配信されるテキストフォーマットの画一化により、機械が容易に言語判断と処理を行えるのだそうです。

イベント直後の値動きは、アルゴリズム取引による「騙し」に注意

なお、「イベント(ニュース)・ドリブン」アルゴリズム取引の存在により、イベント直後の値動きには、より注意が必要となりました。このアルゴリズムは、指標等の発表後に合わせて一方向に値動きを大きく加速させた後、反対売買(決済)によって反対側に大きく変動させる、いわゆる「騙し」の値動きを増幅させる原因となっているからです。このことから一般の市場参加者は、イベント直後に取引を行う場合、タイミングを見定めて実施する必要が生じてしまいました。



他にも「HFT」取引業者が得意とするアルゴリズム取引として、1ティック、2ティック程度の小さな値幅の獲得を繰り返す「スキャルピング」があります。仮に相場の予測から外れて、意図せず価格が逆方向に動いた場合も、高速取引の利点を生かして決済させることが可能であるため、損失を最小限に抑えることができます。まさに「スキャルピング」は「HFT」の優位性を活かした、アルゴリズムと相性の良い戦略と言えます。

アルゴリズムは多種多様

上記のようなアルゴリズム取引は、収益獲得を目的とした「ディレクショナル・アルゴリズム」の一つとして分類されます。その他にも、目的や分類に応じた様々なアルゴリズム取引が市場では存在しています。

取引目的	アルゴリズムの分類	具体的なアルゴリズム名称
収益獲得	・マーケットメイキング・アルゴリズム (売買両方の注文を出し、価格差を収益源にする)	市場実勢価格連動、市場仲値参照など
	・ディレクショナル・アルゴリズム (市場予測を行い、売買価格差を収益源にする)	トレンドフォロー、イベント(ニュース)・ドリブン、スキャルピングなど
	・裁定アルゴリズム (裁定機会を発見・利用して収益源にする)	同一商品間裁定、理論的裁定など
コスト抑制	・執行系アルゴリズム (取引を細分化する等で取引コストを抑制する)	アイスバーグ、VWAPなど

※その他に市場操作系アルゴリズムも存在しますが、本稿では割愛致します。

りそな WEEKLY COLUMN

「HFT」に対する法規制が進む

このようなアルゴリズム取引を活用した「HFT」取引業者に対し、国は法整備を進めることで対策を講じてきています。日本では、2017年に金融商品取引法が改正され、「HFT」取引業者に対しての規制を強化しました（2018年4月に施行）。この法律の施行により、高速取引行為者に対して、内閣総理大臣の登録を義務付けたことや、監督当局の検査を課したことで、「HFT」の実態把握と動向の監視に繋がっています。

また、最近では「スピードバンプ」の導入について注目を集めています。「スピードバンプ」とは、取引所側で注文を受けてから、取引執行までの時間をあえて遅延させることで、高速取引を阻害する仕組みを指します。この仕組みがあることで、時間的優位性をもつ「HFT」取引業者と他の投資家との不平等感の解消が期待されており、実際に導入している海外取引所も存在します。

これからも投資家として気を付けること

「HFT」取引業者のアルゴリズム取引が、市場の相場を動かすほどの影響力をもつことを確認してきました。法規制の強化は続くものの、テクノロジーの発展や進歩の勢いは止まらず、近い将来はナノ秒を上回るピコ秒（1兆分の1秒）のような高速取引業者が現れるかもしれません。



これからも気を付けたいのは、「HFT」取引業者が活躍する場面や市場参加者の少ない時間帯で取引を行うことをできるだけ避けるということです。仮にそのような環境で取引を行う場合は、急な相場変動に耐えられるだけのヘッジを入れておくことをお勧めします。またポジションを保有した際は、必ず逆指値の決済注文を入れるなど、十分なリスクケアを心掛けていきたいものです。

【参考文献・URL】

- ・「高速取引行為者向けの監督指針」金融庁
- ・「アルゴリズム取引の正体」一般社団法人金融財政事情研究会
- ・「日本経済新聞」（2019.8.6日付記事）